

憲法を起草する会 令和3年5月15日



おやじより

前回、省察シートを書いてもらい、ある方から「憲法とは何なのか?」、「そこがはっきりしていなければ議論が進まないのでは?」という、提案・指摘があった。

「憲法を起草する会」という看板で、この会を開催しているが、「憲法」という言葉を見た時に、みんな言葉に対してのイメージが異なる。もしかしたら、同じことを考えていないかもしれない。

なので、「憲法」という名前自体も作り変えても良いと思っている。例えば、「掟」など。上記の事から「何を議論しようとしているのか?」ということを最初にすり合わせをしておきたい。

ちなみに、今の日本国憲法と、聖徳太子の十七条憲法では全く異なるもの。憲法の対象も、中身も異なる。

そもそも「憲法」という言葉自体が曖昧である。英語の「Constitution」だと「國体」となるが、それは違うのではないかと思う。だからこそ、先ず、イメージをすり合わせる。

また、憲法を起草する際、今の憲法にこだわりすぎると面白くない。それよりも日本人として「こう在りたい」と言うことを、どう表現し、どういう中身にするのかの話をしていきたい。

義務みたいな形で、意見を発しなければいけないというのも嫌なので、喋りたい人から意見を発してって議論を活性化してってもらいたい。

■憲法の定義について

●参画者

自分は、そもそも現行の憲法がどういうものなのかを知らない。その中で思うことは、皆、法律を作るために集まっているのではなく、「これから先の時代を日本人としてどういう風に生きていくのか?」、「我々がこれからの日本をどう創っていくのか?」という在り方について話をする場ではないかと思う。

先の勉強会でも、過去を知らないと、「時」の繋がりがわからないとおっしゃられていたので、日本や日本人の歴史なども話し合う場でもあるように思う。あえて、法律の専門書を買って話し合うような場ではないと感じている。

●おやじ

特に戦後の憲法学や法律学というのは、そもそも、特定の価値観が前提にある。それは、日本人が「大日本帝国憲法」を創る以前の価値観とはとは本質的に異なる。だから既存の憲法等を読まないほうが良いと思う。

●参画者

むすびの里で数回、憲法を起草する会に参画して、シンプルの方が良いと感じる。憲法という言葉自体が難しく、わかっていないかもしれない。30人居ても、わかっているのは1人か2人ぐらいではないかと感じる。例えば小学生が肩を組んで歌えるぐらいのシンプルさはどうだろう。

小学生は行き過ぎかもしれないが、中学生が、日本國の事を深く知ったり、「日本人はこういうことを大事にして、生きてきた、だからこそそういう事を大事にしてこれからの日本を創っていきたい」と思うようなものにしたい。表現としては、鼻歌で歌えるようなものでも良い。心にズシンと来て、普段の生活の中で、「守らないといけないな」と思えるようなものにしたい。

●参画者

教育勅語の話だけではないが、皆が、普遍的で本質的に大事だと感じる事が憲法の中に組み込まれている必要があるのではないかと思う。

かといって、強制力があるのではなく、地域性や、地域の文化が当然尊重されるような、和らかくて、みんなが本質的に大事だと共通で思えることができる文言がある方が良いのではと思う。

●参画者

「憲法」について、2つイメージがある。

【1】理念としての憲法「本来の日本はどうあるべきか？」

「日本人として、民族としてどうあるべきか？」というもの。それを誰にでもわかるようなストーリーにし、憲法なのか、資料なのか、形にしていく。そこに向かって一致団結して向かっていき、「私達の日本は～なものなのだ」と奮起できるようなもののイメージ。

【2】現存の法律としての「憲法」

①と②のイメージはかなり乖離しているように感じる。それを、どのぐらい歩み寄って、憲法としてみなすのか。現存の憲法とは全くお構いなしに、理念を語る為の文章づくりにするのか。そのあたりの方向性が実はわからない。

先に文章を創り、後で憲法にすり合わせるというのも有りかなとも思う。そのあたりも皆さんと考え合わせていかないといけないと考えている。

●おやじ

今、言われたよう、「憲法」という言葉には、ある程度の既成の概念が残ってしまう。全く新しいものを創ろうと思っていても、今の憲法との対比という作業も必要になってくると感じる。でなければ、「結局これは何なのか？」と思われてしまう。

ただ、「誰かが決める」ということではなく、「自分達で決めていく」ということが大事になってくると感じている。「他者には任せない」というスタンスで発言をしてもらったら良いと思う。

●参画者

今の憲法は、日本国民が守るべきものではなく、基本的には国家公務員や大臣が守るべきものとして書かれているのではないかと感じる。ここで語る憲法は、「日本人が日本人としてどうあるべきなのか？」ということを語り、それが新しい日本国憲法のようにするのが理想的ではないかと感じる。

既存の憲法というのは、国家権力が國を統治する為に使うようなものだとも思う。なので、そういうものではない憲法にしたい。

●おやじ

國民一人ひとりが文言から、自分に振り返って、その意味を理解できるようなものということ。

●参画者

自分自身、公立小学校の教育現場と関わっているが、違和感や危機感を感じる。今の教育現場では、競争もさせず、先生方もしたくてもさせられないことがたくさんある。このままの世の中であれば、未来の子供達のことを心配でならない。そのために、まずは我々、責任世代が、日本人としての在り方から学ばなければならないのではないかと感じる。

むすびの里に行って、「田んぼで米をつくっているため、ライフラインが止まっても、あまり困ることがないのではないか」と感じた。自然のものと共生していく生活が大切ではないかと感じる。日本人が行って来た生活の仕方を勉強するところからはじめた方が良いのではないかと感じる。

●参画者

日本に留まらず、世界の人類に提案できる憲法を創れないかと感じている。世界画一的な考えを、押し付けてはいけませんが、先ずは、「日本人はこうしていく」ということ、人類が最低限、普遍的に守らないといけないことを記載するのはどうだろうかと思う。

万物の魂を大切にすることなど、本来の人類の精神を、日本に限らず、世界の人類に提案するような憲法ではどうだろうかを感じる。

●参画者

憲法を専門的に勉強はしていないが、憲法を起草する会ということで、憲法の前文を考えるのかと考えていた。現行日本国憲法の前文は、ほとんど英語で書かれている。内容も、誰が読んでも分からないような言葉が使われている。

だから、前の大日本帝国憲法と同じように、前文に理念、宇宙観や価値観が感じることのできる前文があればよいのではと感じる。

●おやじ

ちなみに、今のような前文・条項という書き方にこだわる必要もない。最終的には、国民に伝わり自覚しやすいような形態にまとめられたらよいと思う。最も重要なのは、「何を」そこで表すか？ということ。

●参画者

自分自身、会社を経営させてもらっているが、会社の経営理念は自社の社員が自分達で作っている。

親父さんの話を聴くとワクワクする。丈夫(ますらお)という言葉を知りただけで、とても反応する。そんな、知りただけでワクワクするような憲法が良い。「こんな国にしたらこんなにええやろ！」ということがイメージできるような憲法にしたい。「これをしてはいけない」等、してはいけない事で管理するような憲法ではなく、ワクワクするようなものを創りたい。

今のアメリカ等を見ていると、法律に抵触しなかったら何しても良いという事が平然と行われ、それが世界にも罷り通っている。

「理想とする生き方をしたら良い地球になるって決まってるやん」と思えるようなワクワクするような憲法にしたい。

●参画者

同じように、ワクワクするようなものを創っていきたいが、文字にすると認識がずれていくような気がする。細かったりすると元々がわからなくなったりするのではないかと思う。

自身もよくはわかっていないが、誰目線で、誰宛の憲法なのかということも、共通認識できるような文字を創ればよいと思う。

●おやじ

少なくとも、意見が違ったら憲法たり得ない。少なくともここにいる人が自信を持って「これでいこう！」と思えるようなものでなくてはならない。

●参画者

道徳的な「負けるな」「嘘を言うな」「弱い者をいじめるな」という事を単純に言うだけではなく、その理由や、背景にある日本人の考え方も伝えていくべきではないかと思う。日本の歴史から、説得力のある言葉を盛り込む。

認識として、憲法というよりは、古事記や日本書紀のように、「人としてどう生きるべきか」を言葉に置き換えたものという発想でよいのだろうか？

●おやじ

いいのではないですかね。

●参画者

それを「人類としてできないかな？」と考えている。憲法というのは半分自己紹介であり、「人類は～ということを大事にする」という事を宣言できたら良いのではないかと感じる。最低限、こういうことをしていくと宣言できるもの。

単一的な価値観の押し付けになってはいけないのだが、日本国民だけではなく全人類に関わるものであれば良いと思う。

●参画者

自分自身、心を開くのが得意ではないが、もっと温かいものであれば良いと感じる。家族のように温かみを感じるもの。そうなると、心を開きづらい人も開きやすいと思う。例えば、隣の人が危険な目にあったとき、「自分の家族だったらどうするか？」など、自分ごととして考えられるような憲法であれば良いと感じる。

ラグビーの日本代表選手で、他の國の人の血が混じっている方も居るが、武士道など、日本の事を学ぶことによって、同じチームになったということを聞いたことがある。日本人の理念や、倫理などを学ぶことによって、外国の人でも日本人になれるのではないか。ユダヤ人は、ユダヤ教を学べばなれるということも聞いた覚えがあり、そのように、理念などを学び、理解することによって日本人になれるような憲法はどうだろうか。

そうすることで地球全体が日本人のようにになれるんじゃないかと思う。そういう普遍的なものを創っていければと思う。

●参画者

日本は日本だが、基本的には、宇宙船地球号的な形で、隣の人も産霊の家族のようになって、垣根が取り払われるような関係ではないかと思う。

都会に住んでいた時、隣の人の顔も知らないし、挨拶をしてもレスポンスが弱かった。人と接することにより、お互い学んでいける社会になれば良いと感じる。あまりガチガチにすべきではないと思うが、地域にあった風習を生かして創っていければよいのではないかな。

我々は日本人であり、「日本ってこうだよ」と体感できる憲法が良いのではないかなと思う。

●参画者

「憲法」と聞くと難しく感じる。「憲法を読みましょう」と言われても、憲法を読みたくないと思う。

なので、堅苦しいガチガチのものではなく、「お天道様が見ているよ」というような、最低限の事を、マイナスな表現ではなく、プラスの表現で、「～しましょう」、「～あったらいいですね」と感じるようなものであれば良いと思う。そうであれば、小さい子からお年寄りまで理解できるのではないかなと思う。

●参画者

全人類対象というのは素敵だと思った。最終的には全人類に行き着くと思う。私達の血の中には、縄文時代から共同体を創って来ているという歴史がある。「八紘為宇」という目的や、DNA、体内の中にある日本人としての生き方を、言葉にし、「こういう風に生きていく」と宣言する。

そこが起点として、結果、世界に広がっていくのではないかなと思う。「日本人として俺達はどう生きる！」という宣言をすることによって、グローバリズムと戦える武器になるのではと思う。それを探り出すイメージ。

●参画者

元々の日本のやり方を貫こうとすると、大東亜戦争のようになってしまわないかという懸念点もある。

現代の学校の先生は、いじめをなくそうとしている。はっきり白黒つけて、いじめをなくそうとしているが、そもそも犬や猫でも、生き物として、いじめはある。「いじめられた時に、どう考えるのか」という精神性が大切ではないかと感じる。

先日、実兄と、丑三つ時に、酒飲みながら「中国とアメリカはどうなるのか?」、「日本はどうなるのか?」という話をしていた。冗談で、「ガンダムをつくったらどうか?」と言ったら、兄は「それ、ええ話やな」と言った(笑)。それも日本らしいのではないか。

●参画者

自分自身、様々な國の方と交流をしてきた。「今できることはなにか?」と考え、ラオスやカンボジアのように、いわゆる発展途上国と呼ばれる名前の國に支援に行ったことがある。孤児院の子供達とファッションショーをしたり、言葉の勉強を教えに行っていた。

その中で感じた事は、こちらとして「善」だと思ってやっていた事が、いつの間にか「やってもらって当たり前」になって来てしまっていた。募金や支援など、善と思ってやっても、すればするだけ自立していく力が失われていくのではないかと思った。

支援をすることが、果たして本当に良い事なのだろうか。自分らしく生きてもらう為に、果たして自分達が支援を行う事は良い事だろうかと感じている。

上記の事も、全て考えられた一文があればと思う。

様々な観点から見ると、二転三転してしまうこともあり、収集がつかなくなるので、私達日本人から見て、完全に「善」であると言えるようなものを入れたい。

●参画者

グローバリゼーションが「義務」と「権利」で管理をしているように思う。アメとムチではなく、「自立」、「自律」していくこと必要になってくると思う。憲法は、自分を律することができるものではなくてはならないのではと感じる。

戦争やいじめはよくないと思うが、避けられないものでもあると思う。それに対して、「戦ってはいけない」とだけ伝えるのではなく、「なんのために戦うのか?」ということを伝えていけるようなものがあれば良いと思う。

少年漫画だと、「誰かを護るために戦う」ということが誰の目から見てもわかる。

避けたいけど、避けられず立ち向かっていかなければならない事に大して、その立向べうべき理由がイメージできるもの。綺麗事だけで終わらせないような文言があれば説得力もあると感じる。

●参画者

自分の好きな言葉に、「有効性は問わない」という三島由紀夫の言葉がある。有効性と考ええると、自分の人生の中の有効性を考えてしまうと思う。有効性を問わず、心から湧き出ることを、何が何でもやり抜くという事が、むちゃくちゃカッコいいと感じる。

すぐにではなく、もしかしたら1,000年後に有効性が出てくるような事をこの場でやりたいと思う。もし、これから、自分達の世代であらゆることが管理社会になって、お金の奴隷になったとしても、「ここで創ったものがあったから日本を取り戻せた」というものを創りたい。

●参画者

言霊が宿るような、日本の人々の心に響いて、親から子供に受け継いでいけるような、ずっと傳承していきたいと思う言葉が良い。

日本らしく、すべてひらがなでもよいかと思ったが、大和言葉を用いての文章だったら傳承されていくものではないかと感じた。

●参画者

想いを込めて創ると良い方向に行くと感じるが、実際問題、自治体や政治家のリーダーは、自分達の憲法が正しいのかということ知らない人が多いように感じる。一番最初に日本のことを学ばないと、1,000年後も、何も成し遂げられないのではないかと感じる。

知り合いに、議員の勉強会では、週刊誌に当てられないようにする講義が行われていると聞いた。適任者だからという理由ではなく、後ろ槍を刺されない為に、大臣なども素行が良い者を選ぶ悪習がある。

なので、根本的に日本のことを学べるようなものである必要性を感じる。憲法で、日本の事をもっと学びなさいと示すことができればよいのではないか。リーダーとして、ワクワクするものつくっていききたい。

●参画者

法律という規則自体、國民に必要なものではなく、國家の舵をとっているような人を対象に、ルールとして必要なもので、私達民へは、「日本文化を残す」、「日本古来の文化を繼承する」という事に尽力してくださいという方向性でも良いのではと感じる。

日本という文化が続いていさえすれば、日本人は不滅だと感じる。言葉がなくても伝わるようなものが良いのではと感じた。

●参画者

50歳や60歳になると、考え方もなかなか変わらないし、どうしようもない人が多いと思う。子供に「日本人はこうやって生きてきて、こうやって生きていくんだよ」と言い聞かされるような、子供に生き方や在り方を伝える事のできる憲法ではどうだろうか。そうすると方向性もはっきりすると感じる。

子供がすくすく育つような内容。そこには丁寧な説明も必要で、歴史や神話もちろん入ってくる。大きな志を持って、日本を未来に継承にしてくださいと伝えることのできるものになれば良いと思う。

●参画者

ここ数年、政治家を見ていて失望し続けている。おやじさんがやっているような、里山文化を大事にすること。それ以前に天皇陛下と民との信頼関係も大事。

里山の中で、食べ物を作って生活する中で、その共同体が侵されそうになると、武家の人が助けに来るというような関係性を描ければよいのでは感じる。

●参画者

日本人のスピリットを思い出すと、「過ぎたるは及ばざるか如し」、「わきまえを知れ」と母からよく言われていたのを思い出した。幼い頃はわからないかったけど、今になってわかるということがある。

過去の集約が今に成り、それが未来につながっていく。幼い頃からの大切な言葉が共通で見つかっていければ、日本人のスピリットの継承になるのではと思った。

●参画者

大学で法律を勉強していた。今の法律やルールは、システムチック。ルールに人間味が微塵も感じられない。「なぜこのルールがあるのか？」と考えた時、「国会で決めたから」という結論になってしまっている。「人が嫌がるからやめておこう」という理由ではなく、システムとして作られているだけ。

あるドキュメンタリー番組で、東南アジアで、移動式の船の裁判所が取り上げられていた。喧嘩が起きて怪我をさせると、罰金ではなく、相手の畑仕事を手伝うという罰が課されていた。それを観て、面白いなと思った。

日本では、加害者は、被害者とも、社会とも遮断されて罰が行われる。それは違うのではないかと感じる「人が嫌がることをしてはいけないから」という、経験をもとに作られたものであれば、心が伝わると感じる。経験から来ているものは伝わる。しかし、今の憲法も法律も、心が伝わらないので、より人間らしい法律を作って行ければと良いのでは感じる。

●参画者

コロナはただの茶番。実は、コロナを利用して、金融経済がぶち壊れないかと願っている。日本人としてどうしていくのかという事を考えていきたい。その結果、最終的に見えてくるものは一つしかないのではないかなと思う。

行くところまで行って、その先にどうやってやろうかということを決めて行ければ、ワクワクしていくのではないと思う。

先程の刑罰の話もよかった。お金の代わりに、労力で相手に返すということができれば、お金は要らなくなる。手伝ったらお米もらって帰れるという、むすびの里のようなことがすべてのところで行われないかと思っている。

●参画者

憲法についてよくわからなく、聖徳太子が作った十七条憲法も読んだこともないし、漢字ばかりでわからなく、意味もよくわからない。

先程調べていて、今風の言葉に和訳しているところがあったので、読んでみた。

【一条】 和を最も大切なものとし、争わないようにしなければなりません。人は仲間を集め群れをつくりたがり、人格者は少ない。だから君主や父親にしたがわなかったり、近隣の人ともうまくいかない。しかし上の者が和やかで下の者も素直ならば、議論で対立することがあっても、おのずから道理にかなう調和する。そんな世の中になると何事も成就するものだ。

【十七条】 物事はひとりで判断してはならない。必ずみんなで論議して判断すべきである。だが些細(ささい)なことは軽いことなので、必ずしもみんなで論議しなくてもよい。ただ國家の重大な事柄の場合、独断では判断を誤ることもあるかもしれない。だからみんなで論議すれば、道理にかなう結論が得られるだろう。

ええこと書いてあるなと思って、もっと学んでいかないといけなかった。先人の事をもっと学んで、理想ベースで、色々と議論をしていき、形にしていくと面白いと感じる。

●参画者

共通理解として、「納得せざるを得ないことは何なのか」ということを探していた。その結果、日本民族が大切にしてきたことは、神社だと感じた。神社に関しては、宗教など入ってなくても、神社ありきになる。

日本書紀、古事記に書かれているように、日本の神社におられる神々の事をまずは勉強しないとけないと思う。それを知らずして日本を語れないかと思うし、これからの子供達にも背中を見せれないのではと感じる。

●参画者

水戸黄門の悪代官の話。それはテレビで作られた世界だと聞いた。昔は、悪代官というのは、法律の通りに動く人だった。

良い代官は、立場を慮れる人だった。立場によって、刑罰を軽くしたりするのが良い代官と言われていた。それを聞いて、日本人らしいなと思った。昔は当たり前に行っていたが、なくなりつつあるのではないかと思ったので、取り戻していけるようにしたい。

●参画者

純粹に、この会自体が、憲法の理想を語る会なのか、憲法を変えていこうとするのか？
ということが見てこなかったのでその点をお聞きできればと思う。

●おやじ

本当に憲法を変えていこうとしている会。変えるのに憲法が必要かどうかという議論もあるが、今のものが悪いとして、「どう変えていくべきなのか？」ということを考えたい。その次に、憲法が必要かどうかを考える。その結果、憲法は必要無いとなるのでは、成文法は不必要ということになる。

でも、不文律はある。その不文律は何なのか。世の中を在るべきものにしていく上で必要であり、やりたいことを真っ当にしていこうということが重要。そう考えると、今みんなで話しをしていることはすべて正解だと言える。

●参画者

本気で世の中を変える為の憲法となった時に、何を軸に、どう決定するのがわからない。
みんなで話すだけだと難しいと感じる。

民主主義としては正しいと思うが、うまく機能しなかった歴史もある。正解は、これから皆で話し合っていくと思うが、軸が無いと、選択肢がずれているか否かがわからないと感じる。結局、多数決や世論に流れていくのではと思ってしまう。

●参画者

ルール、精神性、決定権の部分の話があったが、一番軸に置かないといけないのが精神性の「わきまえる」ということではないかを感じる。ルールでは養えない道徳的な部分、「道理」。それを、教育や家庭でどう伝えていくかが重要だと思う。罰し方にしても、それが道理につながっていけばよいと思う。

ルールで事細かく決めてしまうと、「それを守ればればいい」となって考えを止めるので、「人間らしく考えよう」という部分を大切にしないといけないと思う。憲法の裏解釈として教養・素養の部分も考えていければと思う。

●参画者

自分自身、古事記、日本書紀を信仰している立場。イザナギ・イザナミが國生みで島を生んだ日本。領土の問題でも、自分の島に外部から入ってくる敵を排除しないといけなく、これは方向性である。どう排除するのかは親父さんのやり方に任せる。

十七条憲法に書いてある、「皆で話し合え」というのは、天照大神が天岩屋戸に隠れた時、みんなで「どうすれば良いのか」と、話し合っていたりもするので、古事記を学ぶということで見えてくるものがある。古事記・日本書紀明らかにすることが自分のミッションである。

先程言われていた、東南アジアの法律の話は、イスラム教の影響が強い。また、水戸黄門の話は明らかに儒教。自分達はあまり意識をしないが、外国にはベースとして、宗教の考え方がある。世界宗教の言語でどうやって日本を語るか。

近代に入った時に世界宗教の言語で武士道を語ったのが新渡戸稲造。十七条憲法に関しても、漢字のものを読んで、自分で解釈をして欲しい。

漢字には、α郡とβ郡があり、音で写しているのでβ郡は中国人が読めない。古事記はβ郡で、音で写しているの、中国人は読めない。

江戸時代の話にはなるが、憲法でも決まりでも、行動規範は職業から来る。大工には大工、武士には武士の行動規範がある。土農工商は、身分制度ではなく、行動規範の違い。

また、大祓の祝詞に、「天つ罪 國つ神 許許太久の罪出ん」と出て来るが、神社本庁は、「天つ罪、國つ罪」という事を読まない。タブーに関するので言わない。

- ・天つ罪⇒農に関してのタブー
- ・國つ罪⇒人間関係に対してのタブー

行動規範に関しては、大祓祝詞の中でも記載されている。

●参画者

日本人は日本人の良さを持っているのに、忘れてしまっているの人がすごく多いと感じる。それを取り戻していきたい。日本人というのは精神的な部分が多いと思う。社会がどうだろうが、自分自身の芯を持っていれば良いと思う。

各々がそれを持っていて、そういうコミュニティーをみんなで創っていければと思う。武士道などももって勉強していきたい。

●参画者

十七条憲法や教育勅語は、納得もするし感動もするもの。日本人の魂が目覚めるような、心を掴む文章であれば良いなと思った

●参画者

ぐっと来るような憲法が良いと思う。現在のものはぐっと来ない。自分自身は、格調も高くて簡潔な「五箇条の御誓文」がかっこいいと思っている。滋賀県の多景島には、五箇条の御誓文を刻んだ塔があり、行った時、格好良くて感動した。

今の憲法をまとめたものがあっても、ぐっとは来ない。シンプルで、日本人が持っているエッセンスの詰まったものがあれば良いと思う。

普遍的なものであっても良いが、わかりにくくても皆の士気が高まるようなもの。格調高いものが良い。わかりにくくても、そのうち分かるようになると思うし、小さい子でも、カッコいいものは好きだと思う。意識が高揚するようなものがあれば良いと思う。

●参画者

皆さんの話を聴いて為になった。もっともっと考えないといけないと感じた。抽象的なところでしか、頭の中に思い浮かんで来ない。が、日本人が日本人らしく、幸せに生きるための憲法があれば良いと思う。

経済的弱者や、競争の中で取り残された方も安心して生きていけるような世の中にするような考え方が普及すれば良いと感じる。

「お金は特別たくさん無くても良いのでは？」という考え方がグローバリストが嫌がる考え方だと思う。「日本はお金に支配される生き方を求めている！ほっといてくれ！」という精神性が必要。

マハティールの「立ち上がれ日本」という本。アジアの人達は日本人に期待している。「日本人なら何かやってくれるのでは無いか」と思っていると思う。

「主権なき国家」には、日本には主権が無いと記載されている。「日本という國はちゃんとしているんだ」と世界に示せるような、みんなが安心感を持って生活できるような憲法を示していきたい。

●参画者

人とか、日本人とかも大切だが、自然とか動物とかも大切にできる掟があれば良いと思う。

●参画者

日本の政治を動かしているのがパワーエリート。最近、法律に則らない無法政治があまりにも目につく。

憲法の起草も大事だが、十七条憲法を基にして、我慢ならない状態になっている日本に、釘を指すの必要だと感じる。基本に立ち返って、いい國日本にしていきたい。日々の生活の中で、日本のためになる生き方をしたいと感じる。

●参画者

それぞれに理想があるので、まとめようとしてはいけないとは感じるが、この会の中で、十七条憲法を読み解くところがあっても良いのかと思った。

日本人の歴史的な規範をベースにした、「在るべき姿」、「らしさ」が認められており、日本國民が読んだら、「こうやって生きていけばよいのか」と思えるようなものになれば良いのかと感じた。

●参画者

今の憲法は日本が戦争に負けて、アメリカが勝手に創ったようなものという認識。コロナ問題 ⇒ コロナの茶番という認識を日本人が持っている人がどれだけ居るのか。民報にどれだけ洗脳されているのか。万人がこの茶番に気づかなければ変わっていかないと強く思っている。

●参画者

ここに居る皆さんは、日本人という在り方がとても好きなのだと感じた。最近話しをした人が、日本人は好きでは無いと言っていたが、それは現代の日本人しか知らない人の話。今の日本人が好きじゃない人にも、昔の素晴らしい日本人の姿を伝えていけるような憲法になればよいと思う。

●参画者

法学部だったが、憲法の勉強はそこまでしていない。憲法とは何なのか？憲法はどうあるべきなのか？を皆さんの話を聞きながら考えていた。憲法という形で無くても良いと思うが、生き方や、生きる目的が一つの共通のものとして形になっていればよいのでは無いと思う。

「八紘為宇」、「世界を家族のようにする。その為生きる。」という生きる目的。
皆が共通で持つ、生きる目的を示せば良いのではないかと感じる。

■おやじより

憲法について知らない人ばかりで良かった。素晴らしい意見ばかり。こうやって対話することにより、ルールができていく。これが日本のルールづくりの根幹である。ガチガチに規制するのではなく、ポジティブなものを作りたい。

●のり

我が國の法体系の原点に「のり」がある。憲法や規律、すべてに。

「のり」とは、大和言葉の一つとして、「宣(の)る」という意味。
「のり」というのは守るべき規範、道理、そのような意味である。
「憲法」と称しているものは「のり」に相当する。

意を宣る＝祈り

英語の「pray」とは、全く意味が異なる。あくまで主体が自分で、神様ははきこしめす存在。魂を込めて神様に宣言するのが祈りである。

神様に自分の意を宣る。神様に祈りを捧げた時、それが自分にとっての規律規範になる。

神様に祈りを捧げた瞬間、祈りは規範になる。集団で行う場合は祝詞。集団で祝詞を上げた瞬間、それが集団のルールになる。

日本人の「のり」という性質は、自分で発した言葉がルールになるということ。あくまで主体的であり、「自分達のことは自分達でやる」という主体性・自律性が本来の日本の在り様であり、本来のルールの在り様。

江戸時代まで、庶民を律するようなものは存在していない。自分達のことは自分達で「のり」を唱えてやっていくという精神性。集落ではそうやってやって生きてきた。

●意思決定

意思決定はどうするのか？みんなで決めれば良いとされていた。時代劇のように、大將が決めて、ぱっと動くということは実際はやっていない。

家の代表として、武将達が集まって、意見を言い合う。一番下座に座った家から順番に意見を言っていく。そして、前の人の意見を踏まえて次の人が意見を言う。最終的には参謀に当たる人が、みんなの意見を取りまとめ「こういうことでよいでしょうか」と言う。その後、「よきにはからえ」、天皇陛下は「よかしかれ」と言う。実際には、こうやって意思決定をしていた。

最近は、何かやる時は、「正しいことがあるはずだ」という経典のような、日本の文化で無いものが入って来てしまっている。

自分達で話し合っただけの事以上のことはできない。考えと、経験の無いことだから自分達の能力以上のことはできない。

それ以上のことは“無い”。あるが如く考えるから外から意思が入って来る。

みんなで決めた事が駄目だったらそれはその集団の限界であり、正解は外には無い。外に行った瞬間、間違いで、その瞬間依存の性質が生まれる。

●勅

天皇陛下の発する言葉は、「勅(みことのり)」と言われる。天皇陛下は、神様の命令で人々の気持ち、生活の在り様、国民の生活を「知れ」と言われた。

天皇陛下は、みんなの意見として意見を発する。みんなの意見として発しないということは絶対的に有り得ない。勅は最終的な答えであり、みんなの意見を知った上で発言しているからこそ、勅に従えということになる。「天皇に従え」ということではなく、「みんなの意見に従え」ということ。

●衆議に従え

十七条憲法では、「悟った、わかったとしても衆議に従え」と書いてある。「神様が下りて来て、わかったとしても衆議に従え」と書いてある。集団で行動をする時には、考えが一緒でないとできない。

衆議をすると時間がかかるが、慣れて来ると1分でできるようになる。時間がある時は、じっくり話して意思決定することもあるが、時間の無い時はちゃちゃっとする。

平素なら、お互いの事や考えを知っているということが大切。最終的には長老が決めるが、みんなの意見をまとめて決議する。みんなの考えを知っていることが重要。

●多数決について

多数決は良くない。多数決をすると反対者が出る。51対49で勝ったとしても、49の不平不満を持っている人が居る。全会一致、全員一致を目指さなければならない。

●自分らしい生き方

日本は、選挙を、明治に入っても「個人」ではなく、「家」でやろうとした。明治に入ってから「個人」が意思決定できるようになった。それまでは、代表して戸主が意思表示をする

「自分らしい生き方がしたい」というのは、そもそも「自分達らしい生き方」だった
そもそもが、家という集団。

集団としての生き方⇒自分らしい生き方。共同体が自立し、その土地に根付いてるので、その土地に最も適したやり方をしなければならない。

例えば、むすびの里にマンゴーを植えても芽はでない。土地に合わないものは育たない。
自然が受け入れ、必然的に住んでいるもの、生き物との一体の集落でしか生きていけない。「らしい生き方」とはそれに適した生き方。

●自立

一番小さい単位は、自立した在所の集落。この集合体が日本である。

縄文時代からの経験値の中で、最適値が確立している。それほど長い歴史を持っている。
「その最適値が何だったか」という事さえ分かれば良い。私達らしい生き方を実践していく。

「幸福」というものは、申し送れるものでなくてはならない。そういう事を伝えていく 憲法は、そういうものになるのではなかと思う。

「自立」。それぞれの村自体が自立していなければ助け合えない。その共同体の中でも自立していかなければならず、でなければ共同体は組めない。

誰かが誰かの世話をしなければ生きていけないというのは、無理。助けられる人しか居ない共同体に未来は無い。自立している者同士で助け合うことが必要。だから強くなっていく。

現在、自立して生きていける人はほぼ居ない。日本人は、超依存体質になってしまっている。水、電気 自立している人はほぼ居ない。電気に頼ること自体が、依存を引き起こす仕組みになっている。例えば、原発村も原発からお金をもらわないと生きていけない。自立する術を教えていくことが大切ではなかろうか。

「自立して生きることが素晴らしい事だ」という事を伝えて行かなければならない。自立した者同士の助け合いでなければならず、そういうものを考える基盤をどうやって常識化するか。

●依存体質からの脱却

神様にお祈りをする時 ちゃんとした事をお祈りしなければならない日本の社会では、天皇陛下がしろしめす立場。

知ってもらふ立場である私達は、みっともない自分であってはならない。しろしめすに値する人間であるべき。甘えたり、甘やかした瞬間その人は成長しない。

他に責任を転嫁した瞬間、自分の成長はなくなる。依存体質から脱却していくことが重要。そういうものの根源を仕込みたい。

●次回について

今回、皆さんの意見を聞いて、とても良い時間になった。次回は、どのような議論にするかは事前にお知らせをしようと考えている。

都合が悪く、来れない人にも議事は配信する。何らかの理由で来れなくなった人は、「むすびの里」のホームページで確認をお願いしたい。

最終的には、日本国民全員、世界人類全員に思いを共有していきたいと思っている。